

小学校学習指導要領解説Q&A 外国語活動



教
一
女
如

教えることは学ぶことである
学び続ける教職員に



鹿児島県総合教育センター

学習指導要領解説 Q & A について

平成29年3月に公示された学習指導要領について、「教科の『見方・考え方』を働かせる授業って?」「知識の理解の質を高めるとは?」といった先生方の疑問や知りたいことなどを、教科等別にQ & A形式でまとめました。

このQ & Aは、改訂された学習指導要領がこれまでとどんなところが変わったのかを中心にまとめています。



1 ダイジェスト

見開きで改訂のポイントをまとめてあるので、教科等の授業を行う上で大事なことは何かがすぐに分かります。

2 Q & A

コラム欄やワンポイントアドバイス、図、表などを取り入れ、分かりやすく読みやすい内容で解説しています。

Q5 内容Bの食生活「(2) 調理の基礎」で、ゆでる材料「じゃがいもなど」と指定されたのは、なぜですか。

A5 ゆでる材料として、水からゆでるものと沸騰してからゆでるものゆでることによってかさが異なるものは、多くの量を煮ることができ調理の特性を理解できるようにするためです。

ここには、「答え (Answer)」に係る補足説明や参考資料などが掲載しているので、「答え」の理由や根拠などが分かります。

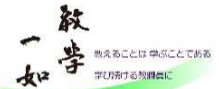
3 活用法

日頃の授業や校内研修、市町村教育委員会や教育事務所主催の研修会、教科等別の教育研究会等では是非活用してください。必要な部分だけでも印刷・ダウンロードできます。

目 次

No.	質 問	ページ
1	外国語活動と外国語科における目標の相違点，共通点は何ですか。	1
2	外国語活動の目標はどのように設定されていますか。	3
3	外国語活動と外国語科における英語の目標の相違点は何ですか。	5
4	英語の目標はどのように設定されていますか。	7
5	外国語教育における主体的・対話的で深い学びの実現はどのように図ればよいですか。	9
6	「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせるとはどのように捉えたらよいですか。	11
7	「知識及び技能」を身に付けさせる際に留意することは何ですか。	13
8	「思考力，判断力，表現力等」を育成する上で留意することは何ですか。	15
9	言語活動を設定する際に留意することは何ですか。	16
10	「聞くこと」の言語活動を設定する上で留意することは何ですか。	17
11	「話すこと [やり取り]」の言語活動を設定する上で留意することは何ですか。	18
12	「話すこと [発表]」の言語活動を設定する上で留意することは何ですか。	19
13	言語の使用場面や言語の働きに関して留意することは何ですか。	21
14	指導計画を作成する時に留意することは何ですか。	23
15	内容の取扱いについて配慮することは何ですか。	25
16	道徳教育との関連はどのように図ればよいですか。	27
17	移行期間にはどのような指導を行えばよいですか。	29

小学校外国語活動改訂のポイント



第3, 4学年に導入される外国語活動を理解するために, 高学年の外国語科との違いや目標の要点, 授業づくりの考え方などの視点で, 以下の六つの **Point** をまとめました。

外国語活

Point 何が違う? 外国語科との関連

中学年外国語活動	高学年外国語科
コミュニケーション能力の 素地 の育成	コミュニケーション能力の 基礎 の育成
【3領域】 聞くこと	【5領域】 聞くこと 読むこと 話すこと [やり取り] 話すこと [発表] 書くこと
話すこと [やり取り] 話すこと [発表]	話すこと [やり取り] 話すこと [発表] 書くこと
慣れ親しみ	活用, 定着

外国語によるコミュニケーションにおける見話すことの言語活動を通して, **コミュニケーション** 育成することを目指す。

Key Word

「言語や文化」

外国語活動では, 日本語や我が国の文化を含めた言語や文化に対する理解を深めます。

学びに向かう

外国語を通して, 言語に対する理解を深め, **相手** に外国語を用いてコミュニケーションする態度を養う。

知識及び技能

外国語を通して, **言語や文化** について体験的に理解を深め, 日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに, 外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。

上記三つの柱には, 「知識及び技能」を實際考えを形成・深化させ, 話して表現することをに学習に取り組む態度が一層高まるという関係 **話的で深い学び** を通した不断の授業改善が求め

Point 目標の要点は? 英語の目標 - 特に留意する項目 -

聞くこと	<p>ゆっくりははっきりと話された際に意味が分かるようにする。</p> <p>目の前の児童が理解できているかを確認しながら聞かせます。</p> <p>文字の読み方(名称)が発音された際にどの文字であるかが分かるようにする。</p> <p>kを[kei]と読むのが「名称の読み方」です。高学年での読む・書く活動につながります。</p>
話すこと [やり取り]	<p>動作を交えながら自分の気持ちを伝え合うようにする。</p> <p>サポートを受けて質問をしたり質問に答えたりするようにする。</p> <p>先生や友達, 動作や絵など, いろいろな人や物の力を借りながら伝え合うよ。</p> <p>「できた」という達成感を味わわせることが大切です。</p>
話すこと [発表]	<p>人前で実物などを見せながら, 身の回りの物や, 自分のこと, 自分の考えや気持ちなどを話すようにする。</p> <p>何度も聞いたり言ったりした言葉の中から, 自分の言いたいものを選んで言えばいいんだね。</p>

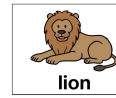
Point 単元などのまとまりを通した授業の流れは? 慣れ親しみの過程

必要な語句や表現に出会う

- 聞く・話す活動
- 聞く
- 音やリズムに慣れる
- 自分のものにする
- 言葉を選んで発話するなど

慣れ親しみ

絵カードを工夫するなどして, 音声と文字の関係にも少しずつ気付かせていきます。



コミュニケーションを図る楽しさを味わう

Key Word

「言語活動」

自分の考えや気持ちを伝え合う活動を指します。コミュニケーションの目的や場面, 状況を明確にして行います。

Key Word

「場面設定」

活動を行う時は, 何のためにそれを行うのかを児童が意識できるように, 具体的な場面設定を必ず行います。

効果的な指導のために求められること

深い児童理解

発達の段階に即した指導技術

学校内外の人的・物的資源を効果的に活用する力

深い教材研究

児童の興味・関心を喚起する課題や指導計画を設定する力

外国語の習得過程についての知識

小小連携, 小中連携

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方

「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。」

Point 授業改善の視点とは？

主体的・対話的で深い学び

実際に英語を使用して互いの考えを伝え合う言語活動を通して、外国語教育の目指す資質・能力（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）をバランスよく一体的に育成することが大切です。

動の目標

方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、**読むこと**を図る**素地**となる資質・能力を次のとおり

力、人間性等

やその背景にある文化に**配慮**しながら、主体的なコミュニケーションを図ろうと

Key Word

「相手に配慮」

知識及び技能を活用し、思考力、判断力、表現力等を働かせる上でのポイントになります。

思考力、判断力、表現力等

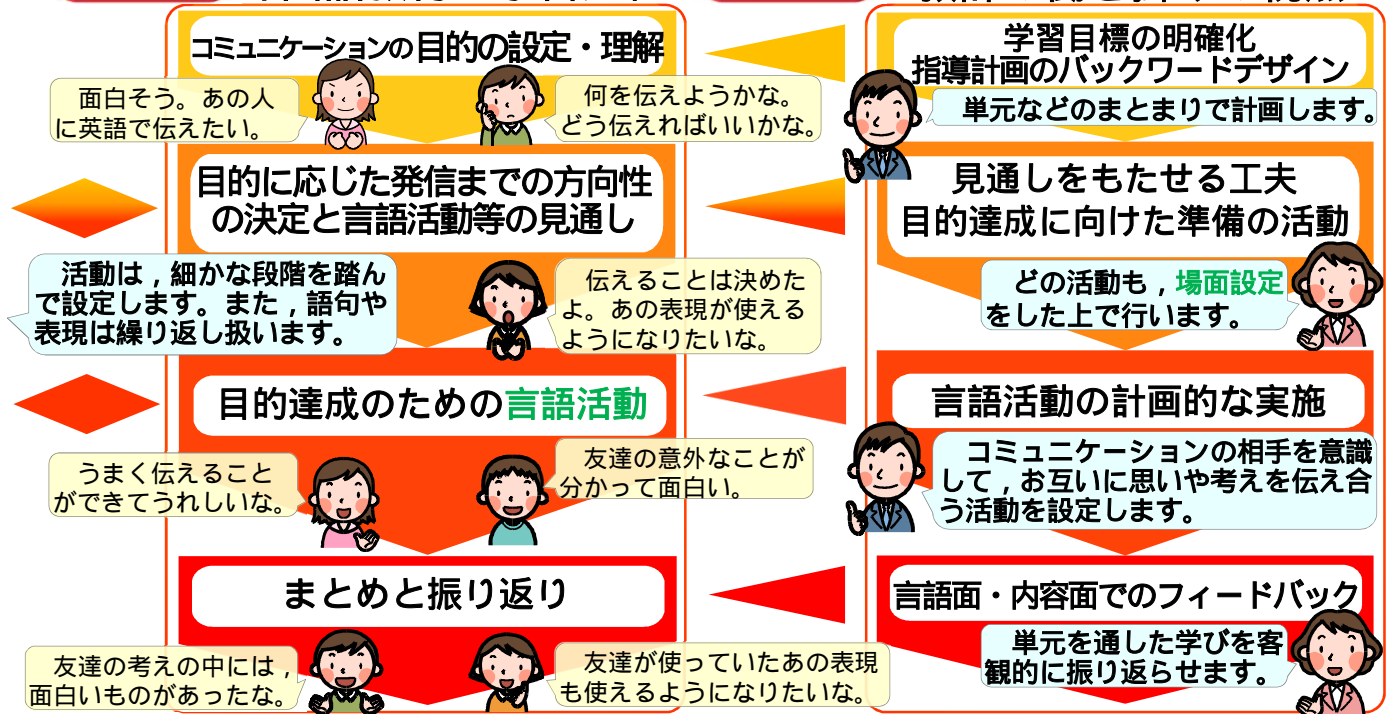
身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。

のコミュニケーションの場面において活用し、繰り返すことで、児童に自信が生まれ、主体的があります。その実現を図るため、**主体的・対**られます。

主体的な学び	外国語の学習や外国語によるコミュニケーションに興味や関心をもつ。 生涯にわたって外国語によるコミュニケーションを通して社会・世界と関わり、学んだことを生かそうとする。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確に設定したり理解したりして見通しをもって粘り強く取り組む。 自らの学習やコミュニケーションを振り返り次の学習につなげる。
対話的な学び	他者を尊重して情報や考えなどを伝え合い、自らの考えを広げたり深めたりする。
深い学び	目的や場面、状況等に応じて思考力、判断力、表現力等を発揮する中で、言語の働きや役割に関する理解や外国語の音声、語彙・表現、文法の知識が更に深まり、それらの知識を実際のコミュニケーションで運用する技能がより確実なものとなる。 深い理解と確実な技能に支えられて、「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現する力が活用される。

Point 資質・能力の育成につながる外国語教育の学習過程

Point 主体的・対話的で深い学びを実現する教師の働き掛けの視点



高学年及び中学校外国語科の目標、内容についての理解
外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢
指導力及び英語力向上のための継続的な研修

特別支援教育の理解
教室英語を駆使する力

外国語活動・外国語科

Q 1 外国語活動と外国語科における目標の相違点，共通点は何ですか。

A 1

- 1 外国語活動は，改訂前の外国語活動とほぼ同じであるのに対して，外国語科は，外国語活動の成果を踏まえた全く新しい教科です。
- 2 外国語活動は，「聞くこと」，「話すこと〔やり取り〕」，「話すこと〔発表〕」の3領域における言語活動を通して，コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を養うことをねらいとしています。外国語科は，「聞くこと」，「読むこと」，「話すこと〔やり取り〕」，「話すこと〔発表〕」，「書くこと」の5領域における言語活動を通して，コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を養うことをねらいとしています。
- 3 「知識及び技能」については，外国語活動は慣れ親しむこと，外国語科は技能を身に付けることを目標としています。
- 4 「思考力，判断力，表現力等」は，どちらも自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動を通して育成します。外国語活動が音声のみを扱うのに対して，外国語科は「読むこと」や「書くこと」を含んだ言語活動となる点が異なります。
- 5 外国語活動，外国語科のいずれも，より弾力的な指導ができるよう，2学年間を通した目標としています。

柱書き

外国語活動	外国語科
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，話すことの言語活動を通して，コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動を通して，コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 「知識及び技能」

外国語活動	外国語科
外国語を通して，言語や文化について体験的に理解を深め，日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	外国語の音声や文字，語彙，表現，文構造，言語の働きなどについて，日本語と外国語との違いに気付き，これらの知識を理解するとともに，読むこと，書くことに慣れ親しみ，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。

外国語活動は，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことが目標です。

外国語科は，基本的な技能を身に付けることが目標です。ただし，読んだり書いたりすることについての全体的な目標は，「慣れ親しむ」レベルです。

(2) 「思考力、判断力、表現力等」

外国語活動	外国語科
身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。

児童が興味・関心を高めるような身近な話題を扱う点では共通しています。

外国語活動では、音声による意味のあるやり取り、すなわち、自分の考えや気持ちなどを音声で伝え合う言語活動を通して、「思考力、判断力、表現力等」を養います。

外国語科では、聞いたり話したりすることに加え、語彙や表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合う言語活動を通して、「思考力、判断力、表現力等」を養います。

(3) 「学びに向かう力、人間性等」

外国語活動	外国語科
外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

外国語活動では、母語ではない外国語を通して、母語と外国語、日本の文化と外国の文化の相違点や共通点を知り、言語やその背景にある文化の多様性を認め、尊重することを目標としています。「相手」とは、目の前にいる人物を指しています。

外国語科では、広い意味での言語や文化を扱うのではなく、学習の対象となる外国語の言語材料の背景にある文化を通してその多様性を理解し、尊重することが目標です。「他者」とは、目の前の人物に加え、その場にはいない人物も含んでいます。

文末の「主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。」は、外国語活動、小学校外国語科、中学校外国語科の全てで共通しています。このことは、学習者が、間違いを恐れず、自身もっている知識や技能を総動員してコミュニケーションを図ろうとすることがいずれの段階においても大切であることを表しています。

【参考】中学校外国語科の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。 (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

外国語活動

Q 2 外国語活動の目標はどのように設定されていますか。

A 2
1 改訂前の外国語活動と同様，音声面を中心とした外国語を用いたコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成することをねらいとしています。
2 「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」，「学びに向かう力」の三つの資質・能力を明確にした上で，各学校段階の学びを接続させるとともに，「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にするという観点から設定されています。

外国語活動の目標

外国語で表現し伝え合うため，外国語やその背景にある文化を，社会や世界，他者との関わりに着目して捉え，コミュニケーションを行う目的や場面，状況等に応じて情報を整理しながら考えなどを形成し，再構築すること。

第1 目標
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，話すことの言語活動を通して，コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを旨す。

三つの領域における「自分の考えや気持ちを伝え合う」活動。

「コミュニケーションを図る素地となる資質・能力」とは，高学年外国語科の目標「コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力」及び中学校外国語科の目標「簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」につながるものです。「素地」や「基礎」とは段階を示しています。

以下の(1)～(3)に示す「知識及び技能」及び「思考力，判断力，表現力等」の資質・能力を一体的に育成する過程を通して「学びに向かう力，人間性等」の資質・能力を育成します。

「知識及び技能」を実際のコミュニケーションの場面において活用し，考えを形成・深化させ，話して表現することを繰り返すことで，児童に自信が生まれ，主体的に学習に取り組む態度が一層向上するため，「知識及び技能」及び「思考力，判断力，表現力等」と「学びに向かう力，人間性等」は不可分に結び付いています。

改訂前の外国語活動の目標
言語や文化に関する体験的な理解
積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度
外国語への慣れ親しみ



外国語活動において育成を目指す資質・能力
「知識及び技能」
「思考力・判断力・表現力等」
「学びに向かう力，人間性等」

(1) 「知識及び技能」

言葉への自覚を促し、幅広い言語に関する能力や国際感の基盤を培うため、日本語や我が国の文化を含めた言語や文化に対する理解を深める。

外国語を通して、
言語や文化について体験的に理解を深め、
日本語と外国語との音声の違い等に気付く
とともに、
外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ
ようにする。

外国語を用いたコミュニケーションを通して、日本語の使用だけでは気付くことの難しい日本語の音声の特徴や言葉の仕組みに気付く。

児童の柔軟な適応力を生かして、高学年以降の外国語学習における聞く力や話す力につなげるものとして、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ。

(2) 「思考力、判断力、表現力等」

高学年の外国語科と同様、児童がよく知っている人や物、事柄のうち簡単な語彙や基本的な表現で表すことができるもの。

(例) 学校の友達や先生、家族などコミュニケーションを図っている相手、身の回りの物や自分が大切にしている物、学校や家庭での出来事や日常生活で起こることなど。

身近で簡単な事柄について、
外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。

外国語教育においては、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報や考えなどを、外国語で聞いたり読んだりして的確に理解したり、外国語を話したり書いたりして適切に表現し伝え合う力を育成するため、資質・能力の三つの柱を踏まえた一連の学習過程の改善・充実を図る必要があります。

外国語活動では、外国語で自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地は、「聞くこと」、「話すこと [やり取り]」及び「話すこと [発表]」の三つの領域を通して養います。

(3) 「学びに向かう力、人間性等」

外国語などの固有の言語だけでなく、日本語も含めた言語の普遍性についての体験的に気付くこと。

目の前にいる相手や聞き手の理解の状況を確認しながら話したり、相手の発話に反応しながら聞き続けようとする態度を示しながら。

外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

単に積極的に外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度のみならず、学校教育外においても、生涯にわたって継続して外国語習得に取り組もうとするといった態度。

外国語活動・外国語科

Q3 外国語活動と外国語科における英語の目標の相違点は何ですか。

A3

- 1 外国語活動では、「聞くこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」の三つの領域別の、外国語科では、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の五つの領域別の目標を設定しています。
- 2 外国語活動では、「聞くこと」、「話すこと」を中心とした言語活動を通して外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めることをねらいとしています。外国語科では、「読むこと」、「書くこと」を加え、技能を身に付けることを目標としています。
- 3 外国語活動の文末が「～するようにする。」となっているのは、目標が慣れ親しむことであるためです。一方、外国語科の「～できるようにする。」とは、技能を身に付けることが目標になるということを示しています。

(1) 聞くこと

外国語活動	外国語科
ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。	ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。
イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。	イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。
ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする。	ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。

外国語活動では、「簡単な語句」や「基本的な表現」、「文字」の聞き取りを対象としています。

外国語科では、「簡単な語句や基本的な表現」に加え、「具体的な情報」を聞き取り、「短い話の概要」を捉えることができるようになることが示されています。

いずれの目標においても「ゆっくりはっきりと」という条件を示しているのは、教室では児童の実態に応じて速さや明瞭さが調整された英語を使う必要があることを表しています。

(2) 読むこと

外国語活動	外国語科
	ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。
	イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

文字に関しては、例えば、Aという文字の場合、[ei]と発音された時にAを指し示すこと、Aを指し示された時に[ei]と発音することが自分の力でできることが求められます。

簡単な語句や基本的な表現については、音声で十分に慣れ親しんだもののみを扱い、初めて見る語句や表現を読むことは求められていないことに留意します。

(3) 話すこと [やり取り]

外国語活動	外国語科
ア 基本的な表現を用いて挨拶, 感謝, 簡単な指示をしたり, それらに応じたりするようにする。	ア 基本的な表現を用いて指示, 依頼をしたり, それらに応じたりすることができるようにする。
イ 自分のことや身の回りの物について, 動作を交えながら, 自分の考えや気持ちなどを, 簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。	イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について, 自分の考えや気持ちなどを, 簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。
ウ サポートを受けて, 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について, 簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。	ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について, 簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして, 伝え合うことができるようにする。

定型的な表現を用いたやり取りに加えて, 自分の考えや気持ちを伝え合うことを対象としている点は共通しています。

挨拶, 感謝の表現は外国語活動で扱います。また, 外国語活動では, 「動作を交えながら」, 「サポートを受けて」のやり取りであることが求められます。

外国語科では, 「依頼」をすることが加わります。また, 「その場で」自分で考え判断して, 伝え合うやり取りも求められます。

(4) 話すこと [発表]

外国語活動	外国語科
ア 身の回りの物について, 人前で実物などを見せながら, 簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。	ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について, 簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
イ 自分のことについて, 人前で実物などを見せながら, 簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。	イ 自分のことについて, 伝えようとする内容を整理した上で, 簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について, 人前で実物などを見せながら, 自分の考えや気持ちなどを, 簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。	ウ 身近で簡単な事柄について, 伝えようとする内容を整理した上で, 自分の考えや気持ちなどを, 簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

身の回りや自分のことについて, 自分の考えや気持ちを話す点は共通しています。

外国語活動では, 「人前で実物などを見せながら」話すのに対して, 外国語科では, 「伝えようとする内容を整理した上で」話すことができるようにします。

(5) 書くこと

外国語活動	外国語科
/	ア 大文字, 小文字を活字体で書くことができるようにする。また, 語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。 イ 自分のことや身近で簡単な事柄について, 例文を参考に, 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

外国語科の書くことについては, 文字を(何も見ないで四線上に)書くこと, 簡単な語句や基本的な表現を書き写すこと, 自分のことや身近で簡単な事柄について例文を参考に書くことができるようにすることを求めています。

書き写したり, 例文を参考に(例文を見ながら, 自分の書きたいことを単語リストなどの中から選んで)書いたりするものは, 「音声で十分に慣れ親しんだ」簡単な語句や基本的な表現であることに留意します。

外国語活動

Q 4 英語の目標はどのように設定されていますか。

A 4

- 1 「聞くこと」、「話すこと」を中心とした言語活動を通して外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めることをねらいとしています。
- 2 「聞くこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」の三つの領域について目標を設定しています。
- 3 「簡単な語句や基本的な表現」とは、小学校学習指導要領外国語の第2の2(1)に示されている語や連語、慣用表現、文を指していますが、初めて外国語に触れる段階であることを踏まえ、中学年という児童の発達の段階に合ったものを適宜選択するものとされています。

1 目標

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]の三つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1の(3)に示す資質・能力を育成する。

(1) 聞くこと 児童の抵抗感をなくすような、児童にとって理解できる速さや明瞭さで。

ア ゆっくりはっきりと話された際に、
自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。
話されているおおよその内容が分かるような内容を扱うようにします。

自分の好きな色や食べ物や自分の着ている服、持ち物など。

イ ゆっくりはっきりと話された際に、
身近で簡単な事柄に関する 基本的な表現の意味が分かるようにする。

児童がよく知っている人や物、事柄のうち簡単な語彙や基本的な表現で表すことができる、児童が興味・関心を示すような簡単な事柄。

話し手の顔の表情や身振り、イラストや写真などを手掛かりとして、基本的な表現を聞いて理解することから徐々に手掛かりがなくても意味が分かる。

活字体の大文字、小文字の名称の読み方(Cという文字の名称は/si:/)。

ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする。
活字体で書かれた文字と結び付けるなどにより、どの活字体を表しているかを理解できるようにします。単語を読ませることはしません。

明示的に文字の形を指導したり、英語の文字をアルファベット順に暗記させたりするのではなく、児童が文字に対して興味・関心を高めるように、まず、身の回りに英語の文字がたくさんあることに気付かせるなど、楽しみながら文字に慣れ親しんでいくように、文字を扱います。

この項目は、(2)読むことア「活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。」につながります。

(2) 話すこと [やり取り]

ア 基本的な表現を用いて挨拶，感謝，簡単な指示をしたり，それらに応じたりするようにする。

児童が安心してコミュニケーションが図れるように，学級の友達や教師，知っている A L T 等とのやり取りを設定します。

機械的なやり取りに終わらないように，挨拶や感謝をしたり，簡単な指示を出したりそれに応じたりする必然性のある場面設定を行います。

イ 自分のことや身の回りの物について，動作を交えながら自分の考えや気持ちなどを，簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。

ウ サポートを受けて，自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について，簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。

教師や A L T，グループやペアの友達の「サポートを受け」ながら，質問ができた，質問に答えられたという達成感をもたせるようにします。

(3) 話すこと [発表]

実物やイラスト，写真など。

ア 身の回りの物について，人前で実物などを見せながら，簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

十分に慣れ親しんだ語句を用いるのであり，難しい語句や表現を暗記させて発表させることがないように留意します（以下のイ及びウについても同じ）。

好き嫌いや欲しい物など。

イ 自分のことについて，人前で実物などを見せながら，簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

時刻や曜日，場所など。

ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について，人前で実物などを見せながら，自分の考えや気持ちなどを，簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

ある程度話す内容を準備した上で，徐々に簡単なまとまりのある話をするようにしていきます。

2 小学校外国語科の「聞くこと」及び「話すこと」の目標

聞くこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]
ア ゆっくりはっきりと話されれば，自分のことや身近で簡単な事柄について，簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。	ア 基本的な表現を用いて指示，依頼をしたり，それらに応じたりすることができるようにする。	ア 基本的な表現を用いて指示，依頼をしたり，それらに応じたりすることができるようにする。
イ ゆっくりはっきりと話されれば，日常生活に関する身近で簡単な事柄について，具体的な情報を聞き取ることができるようにする。	イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について，自分の考えや気持ちなどを，簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。	イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について，自分の考えや気持ちなどを，簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。
ウ ゆっくりはっきりと話されれば，日常生活に関する身近で簡単な事柄について，短い話の概要を捉えることができるようにする。	ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について，簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして，伝え合うことができるようにする。	ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について，簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして，伝え合うことができるようにする。

外国語活動・外国語科

Q 5 外国語教育における主体的・対話的で深い学びの実現はどのように図ればよいですか。

A 5

- 1 主体的・対話的で深い学びは、「知識及び技能」を体験的に身に付けること、「思考力、判断力、表現力等」を育成すること、「学びに向かう力、人間性等」を涵養^{かん}することが偏りなく実現されることを目指して行われるものです。
- 2 単元など内容や時間のまとまりを見通した授業改善を通して実現を図ります。
- 3 基礎となる知識及び技能の習得に課題が見られる場合には、それを身に付けるために、児童の主体性を引き出すなどの工夫を重ね、確実な習得を図ります。
- 4 「深い学び」の視点に関して、各教科等の学びの深まりの鍵となるのが、「見方・考え方」です。「見方・考え方」を、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげます。

1 主体的・対話的で深い学びの視点

(「外国語活動・外国語研修ガイドブック」から抜粋)

(1) 「主体的な学び」の視点

学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる『主体的な学び』が実現できているか。

外国語教育における「主体的な学び」とは、

外国語を学んだり、外国語を用いてコミュニケーションを行ったりすることに興味や関心をもつこと、生涯にわたって外国語によるコミュニケーションを通して社会・世界と関わり、学んだことを生かそうとすることを意識すること、

コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定したり理解したりして見通しをもって粘り強く取り組むこと、

自らの学習やコミュニケーションを振り返り次の学習につなげること

です。小学校では、児童がやってみたいという気持ちをもって活動に取り組んだり、楽しみながら活動をしたり、自分の本当の気持ちや考えを伝え合いたいという思いをもって活動をしている時、主体的に学んでいると言えます。

(2) 「対話的な学び」の視点

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

外国語教育における「対話的な学び」とは、表面的なやり取りのことではなく、他者を尊重して情報や考えなどを伝え合い、自らの考えを広げたり深めたりすることです。

小学校では、聞いたり話したりすることが中心となりますが、書かれたもの（絵本など）を読んで社会や世界について知ったり、他者の考え方を学んだり、自らの考えを深めたりすることも、対話的な学びであると考えられていることに留意する必要があります。

(3) 「深い学び」の視点

各教科等で身に付けた資質・能力によって支えられた，物事を捉える視点や考える方法である「見方・考え方」を活用し，知識を相互に関連付けてより深く理解したり，情報を精査して考えを形成したり，問題を見いだして解決策を考えたり，思いや考えを基に構想して意味や価値を創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

外国語教育における，「深い学び」とは，

コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて思考力，判断力，表現力等を発揮する中で，言語の働きや役割に関する理解や外国語の音声，語彙・表現，文法の知識がさらに深まり，それらの知識を聞くこと，読むこと，話すこと，書くことにおいて実際のコミュニケーションで運用する技能がより確実なものとなるようにすること

深い理解と確実な技能に支えられて，外国語教育において育まれる「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現する力が活用されるようにすること

です。

2 外国語教育における学習過程

目的・場面・状況に応じてコミュニケーションを行う言語活動の中で知識・技能がより深く学ばれていくことから，以下のような学習過程を通して主体的・対話的で深い学びの実現を図ります。

外国語教育における学習過程	(例)身の回りの物に関するクイズを出し合う単元
児童が設定されたコミュニケーションの目的や場面，状況等を理解する。	単元の始めの時間に，教師やネイティブ・スピーカー等による単元終末のコミュニケーション活動をデモンストレーションで提示することで，児童がそのやり取りの目的や場面，状況等を理解し，「自分たちもやってみたい」という意欲をもたせるようにする。
目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し，コミュニケーションの見通しを立てる。	クイズを出し合うために必要と思われる簡単な語句や基本的な表現を様々な活動を用いて学習し，尋ねたり答えたりすることができるように，細かな段階を踏んで習得していくようにする。
目的達成のため，具体的なコミュニケーションを行う。	単元の終末の活動として，児童それぞれが，ペアやグループなどで，身の回りのものを当てるクイズを出し合う活動を行う。
言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う。	単元最後の自己評価による振り返りを行い，英語と日本語の言い方の相違点や類似点に気付いたり，友達とのやり取りを通して自分や友達のクイズの面白さや工夫などについて感じたりしたことを記録したり，発表し合ったりさせる。

主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか，対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか，学びの深まりをつくりだすために，児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか，といった視点で授業改善を進めます。

外国語活動・外国語科

Q 6 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせるとはどのように捉えたらよいですか。

A 6

- 1 外国語によるコミュニケーションの中で、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという、物事を捉える視点や考え方であり、外国語教育の本質と捉えることができます。
- 2 外国語教育における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の鍵となるものです。
- 3 毎時間の授業を「見方・考え方」を意識したものにすることにより、児童は外国語教育で大事にされている物事の見え方や考え方を理解し、個別の知識・技能が、統合された概念へと高められることが期待されます。
- 4 小学校における外国語教育においては、「外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉える」点を重視します。

1 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」

「見方・考え方」が、外国語で他者とコミュニケーションを行うためのものであることを示している。

社会や世界との関わりの中で事象を捉えたり、外国語やその背景にある文化を理解するなどして相手に十分配慮したりすること。

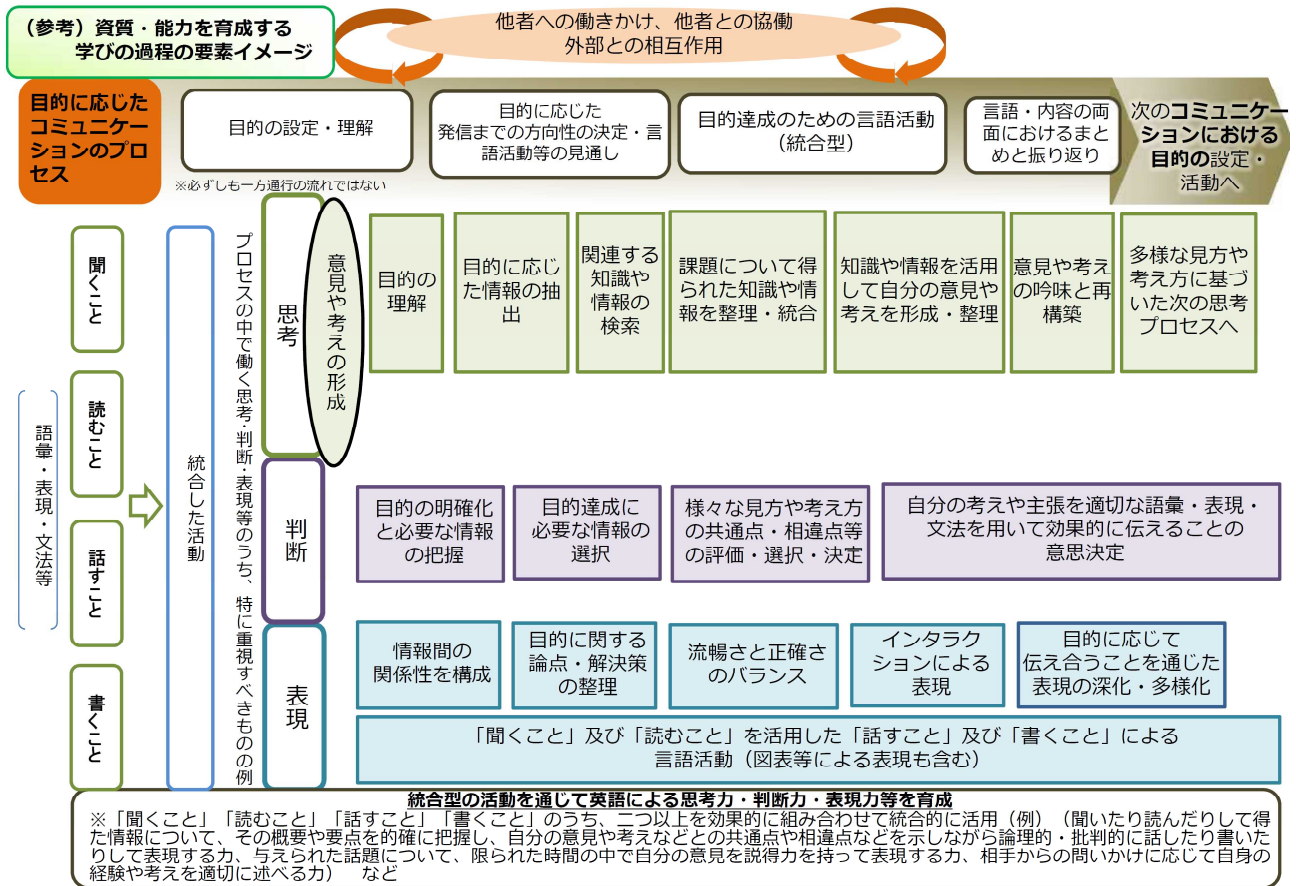
外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。

多様な人々との対話の中で、目的や場面、状況等に応じて、既習のものも含めて習得した概念（知識）を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、課題を見いだして解決策を考えたり、身に付けた思考力を発揮させたりすること。

外国語で他者とコミュニケーションを行うには、社会や世界との関わりの中で事象を捉えたり、外国語やその背景にある文化を理解するなどして相手に十分配慮したりすることが重要です。また、日本語を含む言語でコミュニケーションを図る難しさや大切さを改めて感じることは、言語によるコミュニケーション能力を身に付ける上で重要であり、言語への興味・関心を高めることにつながるため、小学校外国語教育では特に重視されています。

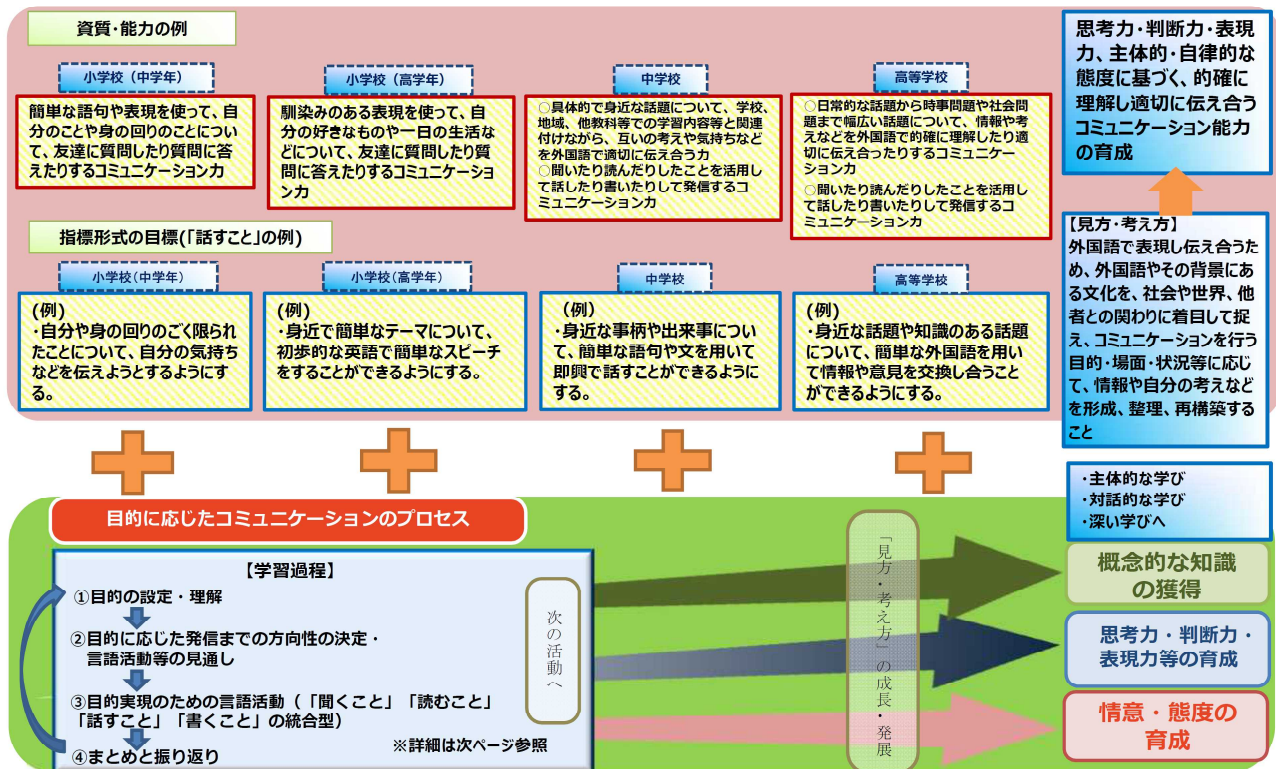
2 授業改善の鍵としての「見方・考え方」

外国語によるコミュニケーションの一連の過程を通して、「見方・考え方」を働かせながら、自分の思いや考えを表現することなどを通じて、児童の発達の段階に応じて「見方・考え方」を豊かにすることが大切です。この「見方・考え方」を確かめて豊かなものとすることで、学ぶことの意味と自分の生活、人生や社会、世界の在り方を主体的に結び付ける学びが実現され、学校で学ぶ内容が、生きて働く力として育まれることとなります。さらに、こうした学びの過程が外国語教育の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につながります。



外国語教育における「見方・考え方」を働かせた深い学びと資質・能力の育成(イメージ)

小・中・高等学校で一貫した目標(指標形式の目標を含む)の下で、発達段階に応じた「学習過程」を経ることによる思考力や判断力の深まり、外国語による表現力の向上、主体的・自律的に学習する態度の育成などを通じ、的確に理解し適切に伝え合うコミュニケーション能力を育成



外国語活動

Q 7 「知識及び技能」を身に付けさせる上で留意することは何ですか。

A 7

- 1 「知識及び技能」は、「コミュニケーションに関する事項」と「言語や文化に関する事項」とで構成されています。
- 2 高学年外国語科で扱う言語材料のうち、目標を達成するのに適切なものを適宜選択して扱います。
- 3 指導は、言語活動を通して行われるようにします。
- 4 外国語活動においては、多くの表現を覚えたり、細かい文構造などに関する抽象的な概念について理解したりすることを目標としていません。一方、音声面に関しては、児童の柔軟な適応力を十分生かすことが可能であるとされています。
- 5 「知識及び技能」を体験的に身に付けさせ、高学年の外国語科で英語の特徴やきまりに関する事項を身に付けることにつながるようにします。

1 「知識及び技能」の内容

(1) 英語の特徴等に関する事項

実際に英語を用いた言語活動を通して、次の事項を体験的に身に付けることができるよう指導する。

「知識及び技能」の指導は、言語活動と切り離して解説等を通して行われるものではないことに留意します。

外国語科において示されている言語材料のうち、外国語活動の目標を達成するのに適切なものを適宜選択して扱います。また、その選択に際しては、児童の発達の段階に合うように留意します。

ア コミュニケーションに関する事項

伝えたい相手に、伝えたい内容を、伝え合う必然性のある場面において、自ら発話したり、相手の伝えたい内容を受け止めようとして聞いたりすること。

ア 言語を用いて主体的にコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを知ること。

言葉を使って伝え合う体験を通して、相手に対する理解を深めたり、自分の思いを伝えたりして、英語で伝え合えた満足感や達成感を味わうことができるようにします。

英語を用いて実際のコミュニケーションを体験することを通して、英語を用いて相手とやり取りをすることの面白さを知ることが、外国語学習への動機付けを高めていくことにつながります。相手と豊かな人間関係を築くために、限られた語彙や表現、非言語手段を用いながら、言葉を使って相手と分かり合える良さを知ることによって言葉によるコミュニケーションの大切さを実感させることが重要です。

イ 言語や文化に関する事項

イ 日本と外国の言語や文化について理解すること。

- (ア) 英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと。

実際に英語で歌ったりチャンツをしたりすることを通して、英語特有のリズムやイントネーションを体得する。

日本語と英語との音声面等の違い

- (例) ・ 日本語のミルク(3音節)と英語のmilk(1音節)。
 ・ fox という単語の /f/ や /ks/ の音。
 ・ 動物の鳴き声の表し方。 など

児童にとって身近な日常生活における食生活や遊び、地域の行事など。

- (イ) 日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気付くこと。

単なる知識としてではなく、体験的な活動を通して具体的に気付く。

- (例) ・ 日本の1日の生活を題材にした英語での絵本の読み聞かせを通して、「いただきます」という表現に合致する表現が英語にはないことに気付かせる。
 ・ 映像資料などを通して世界の遊びと日本の遊びには共通点や相違点があることに気付かせる。 など

多様な文化の存在を知り、また、日本の文化と異文化との比較により、様々な考え方があることに気付くとともに、我が国の伝統文化についての理解を深め、英語によるコミュニケーションの中で我が国の文化を発信することにつながっていくことが期待されます。これらの自校は、単なる知識として指導するのではなく、体験的な活動を通して具体的に気付かせていきます。

A L T や留学生、地域に住む外国人など。

- (ウ) 異なる文化をもつ人々との交流などを体験し、文化等に対する理解を深めること。

2 小学校外国語科の言語材料

ア 音声

次に示す事項のうち基本的な語や句、文について取り扱うこと。

- (ア) 現代の標準的な発音
 (イ) 語と語の連結による音の変化
 (ウ) 語や句、文における基本的な強勢
 (エ) 文における基本的なイントネーション
 (オ) 文における基本的な区切り

イ 文字及び符号

- (ア) 活字体の大文字、小文字
 (イ) 終止符や疑問符、コンマなどの基本的な符号

ウ 語、連語及び慣用表現

- (ア) 1に示す五つの領域別の目標を達成するために必要となる、第3学年及び第4学年において第4章外国語活動を履修する際に取り扱った語を含む600～700語程度の語
 (イ) 連語のうち、get up, look at などの活用頻度の高い基本的なもの
 (ウ) 慣用表現のうち、excuse me, I see, I'm sorry, thank you, you're welcome などの活用頻度の高い基本的なもの

エ 文及び文構造

次に示す事項について、日本語と英語の語順の違い等に気付かせるとともに、基本的な表現として、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通じて活用すること。

- (ア) 文
 「a 単文」、「b 肯定、否定の平叙文」、「c 肯定、否定の命令文」、「d 疑問文のうち、be 動詞で始まるものや助動詞 (can, do など) で始まるもの、疑問詞 (who, what, when, where, why, how) で始まるもの」、「e 代名詞のうち、I, you, he, she などの基本的なものを含むもの」、「f 動名詞や過去形のうち、活用頻度の高い基本的なものを含むもの」
 (イ) 文構造
 「a [主語 + 動詞]」、「b [主語 + 動詞 + 補語]のうち、主語 + be 動詞 + 名詞 / 代名詞 / 形容詞」、「c [主語 + 動詞 + 目的語]のうち、主語 + 動詞 + 名詞 / 代名詞」

外国語活動

Q 8 「思考力，判断力，表現力等」を育成する上で留意する点は何ですか。

A 8

- 1 外国語活動で育成すべき「思考力，判断力，表現力等」は，身近で簡単な事柄について，外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地と捉えることができます。
- 2 「思考力，判断力，表現力等」は，決められた表現を使った単なる反復練習のようなやり取りではなく，伝え合う目的や必然性のある場面でのコミュニケーションを通して養います。
- 3 外国語によるコミュニケーションを円滑に行うために，どうすれば相手により伝わるか思考しながら，表現する内容や表現方法を自己選択し，尋ねたり答えたりするようにすることが大切です。

「思考力，判断力，表現力等」の内容

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し，英語で表現したり，伝え合ったりすることに関する事項

具体的な課題等を設定し，コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，情報や考えなどを表現することを通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

決められた表現を使った単なる反復練習のようなやり取りではなく，伝え合う目的や必然性のある場面でのコミュニケーションを大切にします。相手の思いを想像し，伝える内容や言葉，伝え方を考えながら，相手と意味のあるやり取りを行う活動を様々な場面設定の中で行います。

自分のことや，学校の友達や先生，身の回りの物や自分が大切にしている物，学校や家庭での出来事など。

目の前にいる相手の反応を確かめたり，反応を感じたりしながら。

ア 自分のことや 身近で簡単な事柄について，簡単な語句や基本的な表現を使って，相手に配慮しながら，伝え合うこと。

これまでに慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を使って伝え合うようにします。

イ 身近で簡単な事柄について，自分の考えや気持ちなどが伝わるよう工夫して質問をしたり質問に答えたりすること。

ゆっくり話したり，繰り返したり，また動作を交えたりするなどの工夫を行うとともに，実物を見せたり，他教科等で作成した成果物等を活用したりするなどして。

外国語活動

Q9 言語活動を設定する際に留意することは何ですか。

A9

- 1 「思考力、判断力、表現力等」を育成するに当たり、「知識及び技能」を活用して、三つの領域ごとの具体的な言語活動を通して指導します。
- 2 言語活動を設定するに当たっては、児童が興味・関心をもつ題材を扱い、聞いたり話したりする必然性のある体験的な活動を設定することが大切です。
- 3 中学年の児童が外国語活動において初めて英語に触れることを踏まえ、まず聞く活動が十分に設定されるようにします。
- 4 文字については、英語における目標「聞くこと」で扱われているため、言語活動についても、「聞くこと」の言語活動で扱います。
- 5 言語活動を行う際には、児童が興味・関心をもち、達成感を味わえるよう、個別支援に努めるとともに、活動方法や聞かせる音声の速度等についても十分配慮します。

1 言語活動に関する事項

言語活動に関する事項

「知識及び技能」

(2)に示す事項については、(1)に示す事項を活用して、例えば次のような言語活動を通して指導する。

「思考力・判断力・表現力等」

2 外国語活動の言語活動

小学校外国語活動	
聞くこと	(ア) 身近で簡単な事柄に関する短い話を聞いておおよその内容を分かったりする活動。 (イ) 身近な人や身の回りの物に関する簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。 (ウ) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体で書かれた文字と結び付ける活動。
話すこと [やり取り]	(ア) 知り合いと簡単な挨拶を交わしたり、感謝や簡単な指示、依頼をして、それらに応じたりする活動。 (イ) 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、好みや要求などの自分の気持ちや考えなどを伝え合う活動。 (ウ) 自分や相手の好み及び欲しい物などについて、簡単な質問をしたり質問に答えたりする活動。
話すこと [発表]	(ア) 身の回りの物の数や形状などについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す活動。 (イ) 自分の好き嫌いや、欲しい物などについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す活動。 (ウ) 時刻や曜日、場所など、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを話す活動。

外国語活動

Q10 「聞くこと」の言語活動を設定する上で留意することは何ですか。

A 10

- 1 「聞くこと」の言語活動には、身近で簡単な事柄に関する短い話の概要把握をする活動、簡単な語句や基本的な表現を理解する活動、文字の名称の読み方を理解する活動があります。
- 2 概要把握、語句や表現の理解に際しては、中学年の児童が興味・関心を示すような内容を扱います。
- 3 知識として語句や表現を与えるのではなく、音声と事物を結び付ける活動を通して、児童自身がその意味を理解し語句や表現に慣れ親しんでいくようにします。また、理解するだけにとどまらず、聞いた後に動作や行動をさせるようにします。
- 4 英語を聞かせる際は、聞き取りやすい声で、ゆっくりはっきりと話すよう努めたり、理解を促す十分な手立てを講じたりすることにより、児童が達成感を味わえるようにします。
- 5 文字を扱う際は、一度に全てができることを求めたり、知識として指導したりするのではなく、あくまでも活動を通して、体験的に文字に親しませます。

中学年の児童が興味・関心を示すような、自分のことや身の回りの人や物、学校生活などに関する短い話。

(ア) 身近で簡単な事柄に関する短い話を聞いておおよその内容が分かったりする活動。

全ての内容を正しく聞き取り理解することを求めているではありません。

(イ) 身近な人や身の回りの物に関する簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。

【活動例】

- ・ red, blue などの色を表す語を聞いてその色を指したり、好みを扱う単元において、登場人物の “I like soccer.” という音声を聞いて、紙面上の「サッカーをしている」イラストを指したりする活動など。

(ウ) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体で書かれた文字と結び付ける活動。

文字認識に関する活動では、困難が認められた場合には、十分な間隔を空けてゆっくり一つ一つの文字を発音したり、発音した後に「文字」を示したりするなどして、児童の抵抗感を軽減し達成感がもてるような手立てを講じます。

前段階として、歌やチャンツの中で文字の読み方に親しませたり、文字の形を指で作ってみたり、形に着目して仲間分けをしたりするなど、児童が文字に親しみ、興味・関心が高まるよう、多様な活動を経験させておくようにします。

【活動例】

- ・ 文字の名称を表す読み方を聞いて、活字体で書かれた文字を指したり、発音された順に文字カードを並べ替えたり線をつないだりして、「読み方」と「文字」を一致させていく活動など。

外国語活動

Q11 「話すこと[やり取り]」の言語活動を設定する上で留意することは何ですか。

A 11

- 1 「話すこと[やり取り]」の言語活動には、簡単な挨拶、問い掛けや依頼等とそれらに応じる活動、好みや要求などに関して自分の気持ちを伝え合う活動、互いの好みや欲しい物などについて尋ねたり答えたりする活動があります。
- 2 場面設定をし、意味のあるやり取りを通して、互いの心を通わすことの大切さを児童に意識させるとともに、その楽しさを実感させるようにします。
- 3 音声を十分に聞かせた上で、繰り返し言うなどの様々な活動を通してそれらに慣れ親しませ、自信や話すことへの意欲を高めながら、段階的に「話す」活動へつなげるようにします。
- 4 「英語を使おうとする」意欲や態度を認め、賞賛し、支援を行うなどして、英語を用いたコミュニケーションの楽しさを児童が実感できるようにします。
- 5 児童が興味・関心を抱き、「伝え合う」ことへの意欲が高まるような場面設定や題材の選択を行い、活動を通して、児童が、自己理解・他者理解を深め、コミュニケーションの楽しさを実感できるようにします。
- 6 話し手は、聞き取りやすい声で言ったり動作を交えたりしながら聞き手を意識して分かりやすく伝え、聞き手はうなずくなどの反応を返して相手の気持ちや考えを受容しながら聞くようにします。
- 7 指導者から児童、児童から指導者、また児童同士など、多様な形態で活動が行われるようにします。

(ア) 知り合いと簡単な挨拶を交わしたり、感謝や簡単な指示、依頼をして、それらに応じたりする活動。

【活動例】

- “How are you?” という問い掛けに対して、自分の体調や状態を答えたり、“The A card, please.” という依頼に対して “Here you are.” などと言いながら文字のカードを渡して応じたり、また、それに対して依頼した側が “Thank you.” と感謝の言葉を言ったりするなどの活動。

(イ) 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、好みや要求などの自分の気持ちや考えなどを伝え合う活動。

一方向ではなく、双方向で感情や情報についてのやり取りがある活動。

【活動例】

- ペアやグループなど多様な形態で、自分の好きな色や食べ物、欲しい物などについて伝え合う言語活動。

(ウ) 自分や自分の好み及び欲しい物などについて、簡単な質問をしたり質問に答えたりする。

【活動例】

- “Do you like blue?” という好みを尋ねたり、“What do you want?” という質問に対して “I want carrots.” と答えたりするなどの活動。

外国語活動

Q12 「話すこと[発表]」の言語活動を設定する上で留意することは何ですか。

A12

- 1 「話すこと[発表]」の言語活動には、実物やイラストなどを見せながら、身の回りのものについて人前で話す活動、自分の好き嫌いや欲しい物などについて話す活動、身近で簡単な事柄について自分の考えや気持ちを話す活動があります。
- 2 いずれの活動においても、「人前で実物やイラスト、写真などを見せながら」という条件が示されています。
- 3 話し手の態度だけでなく、聞き手の態度を育てることに留意します。
- 4 児童の発達の段階や興味・関心に沿った、「話したくなる」適切なテーマを設定するようにします。
- 5 活動を通して、児童が、自己理解・他者理解を深め、コミュニケーションの楽しさを実感できるようにします。
- 6 児童にとっての最終活動となるモデルを示し、活動のイメージをもたせるとともに意欲を喚起するようにします。
- 7 児童一人一人が自信をもって発表できるよう、個に応じた支援を行うとともに、準備の時間を十分確保するようにします。

事実・客観的なもの。

(ア) 身の回りの物の数や形状などについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す活動。

【活動例】

- ・好きな漢字やお気に入りの場所の写真、友達に贈るカードなどの作品について、具体物を示しながら、その数や形状などについて簡単な語句や基本的な表現を用いて話す活動。

主観的なもの（自分の感情や気持ち）。

(イ) 自分の好き嫌いや、欲しい物などについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す活動。

【活動例】

- ・自分の好きな物や苦手な物についてイラストなどを描いて発表用シートを作成し、それを見せながら、自己紹介する活動。

(ウ) 時刻や曜日、場所など、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを話す活動。

【活動例】

主観的なもの。

- ・校内の自分のお気に入りの場所について、イラストや写真などを見せながら、“My favorite place is the music room. I like music.”などと自分の考えや気持ちを話す活動など“Do you like blue?”という好みを尋ねたり、“What do you want?”という質問に対して“I want carrots.”と答えたりするなどの活動。

(参考資料) 言語活動一覧表

	小学校外国語活動	小学校外国語科	中学校外国語科
ア 聞くこと	<p>(ア) 身近で簡単な事柄に関する短い話を聞いておおよその内容を分かったりする活動。</p> <p>(イ) 身近な人や身の回りの物に関する簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。</p> <p>(ウ) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体で書かれた文字と結び付ける活動。</p>	<p>(ア) 自分のことや学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。</p> <p>(イ) 日付や時刻、値段などを表す表現など、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取る活動。</p> <p>(ウ) 友達や家族、学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話や説明を、イラストや写真などを参考にしながら聞いて、必要な情報を得る活動。</p>	<p>(ア) 日常的な話題について、自然な口調で話される英語を聞いて、話し手の意向を正確に把握する活動。</p> <p>(イ) 店や公共交通機関などで用いられる簡単なアナウンスなどから、自分が必要とする情報を聞き取る活動。</p> <p>(ウ) 友達からの招待など、身近な事柄に関する簡単なメッセージを聞いて、その内容を把握し、適切に回答する活動。</p> <p>(イ) 友達や家族、学校生活などの日常的な話題や社会的な話題に関する会話や説明などを聞いて、概要や要点を把握する活動。また、その内容を英語で説明する活動。</p>
イ 読むこと		<p>(ア) 活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動。</p> <p>(イ) 活字体で書かれた文字を見て、その読み方を適切に発音する活動。</p> <p>(ウ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする情報を得る活動。</p> <p>(イ) 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、絵本などの中から識別する活動。</p>	<p>(ア) 書かれた内容や文章の構成を考えながら黙読したり、その内容を表現するよう音読したりする活動。</p> <p>(イ) 日常的な話題について、簡単な表現が用いられている広告やパンフレット、予定表、手紙、電子メール、短い文章などから、自分が必要とする情報を読み取る活動。</p> <p>(ウ) 簡単な語句や文で書かれた日常的な話題に関する短い説明やエッセイ、物語などを読んで概要を把握する活動。</p> <p>(イ) 簡単な語句や文で書かれた社会的な話題に関する説明などを読んで、イラストや写真、図表なども参考にしながら、要点を把握する活動。また、その内容に対する賛否や自分の考えを述べる活動。</p>
ウ 話すこと(やり取り)	<p>(ア) 知り合いと簡単な挨拶を交わしたり、感謝や簡単な指示、依頼をして、それらに応じたりする活動。</p> <p>(イ) 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、好みや要求などの自分の気持ちや考えなどを伝え合う活動。</p> <p>(ウ) 自分や相手の好み及び欲しい物などについて、簡単な質問をしたり質問に答えたりする活動。</p>	<p>(ア) 初対面の人や知り合いと挨拶を交わしたり、相手に指示や依頼をして、それらに応じたり断ったりする活動。</p> <p>(イ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝えたり、簡単な質問をしたり質問に答えたりして伝え合う活動。</p> <p>(ウ) 自分に関する簡単な質問に対してその場で答えたり、相手に関する簡単な質問をその場でしたりして、短い会話をする活動。</p>	<p>(ア) 関心のある事柄について、相手からの質問に対し、その場で適切に回答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動。</p> <p>(イ) 日常的な話題について、伝えようとする内容を整理し、自分で作成したメモなどを活用しながら相手と口頭で伝え合う活動。</p> <p>(ウ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、読み取ったことや感じたこと、考えたことなどを伝えた上で、相手からの質問に対して適切に回答したり自ら質問し返したりする活動。</p>
エ 話すこと(発表)	<p>(ア) 身の回りの物の数や形状などについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す活動。</p> <p>(イ) 自分の好き嫌い、欲しい物などについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す活動。</p> <p>(ウ) 時刻や曜日、場所など、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを話す活動。</p>	<p>(ア) 時刻や日時、場所など、日常生活に関する身近で簡単な事柄を話す活動。</p> <p>(イ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の趣味や得意なことなどを含めた自己紹介をする活動。</p> <p>(ウ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、学校生活や地域に関することなど、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを話す活動。</p>	<p>(ア) 関心のある事柄について、その場で考えを整理して口頭で説明する活動。</p> <p>(イ) 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、簡単なスピーチをする活動。</p> <p>(ウ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分で作成したメモなどを活用しながら口頭で要約したり、自分の考えや気持ちなどを話したりする活動。</p>
オ 書くこと		<p>(ア) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の大文字、小文字を書く活動。</p> <p>(イ) 相手に伝えるなどの目的を持って、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を書き写す活動。</p> <p>(ウ) 相手に伝えるなどの目的を持って、語と語の区切り注意到、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ基本的な表現を書き写す活動。</p> <p>(イ) 相手に伝えるなどの目的を持って、名前や年齢、趣味、好き嫌いなど、自分に関する簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いた例の中から言葉を選んで書く活動。</p>	<p>(ア) 趣味や好き嫌いなど、自分に関する基本的な情報を語句や文で書く活動。</p> <p>(イ) 簡単な手紙や電子メールの形で自分の近況などを伝える活動。</p> <p>(ウ) 日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて、出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動。</p> <p>(イ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分の考えや気持ち、その理由などを書く活動。</p>

外国語活動

Q13 言語の使用場面や言語の働きに関して留意することは何ですか。

A 13

- 1 表現を教えるだけではなく、実際に挨拶をしたり、相づちを打ったりすることなどによって、他者とのコミュニケーションが円滑になることや、実際に場面設定をして礼を言ったり、褒めたりすることなどによって、自分の気持ちを他者に伝えることができること、実際に質問したり、依頼したりすることなどによって、他者に働き掛け相手の行動を促すことができることに気付かせます。
- 2 身振りや表情などの非言語的要素の活用も重要であることを指導します。

1 改訂による変更点

(改訂前)
コミュニケーションの働き
「相手との関係を円滑にする」
「気持ちを伝える」
「事実を伝える」
「考えや意図を伝える」
「相手の行動を促す」



(改訂後)
言語の働き
「コミュニケーションを円滑にする」
「気持ちを伝える」
「情報を伝える」
「考えや意図を伝える」
「相手の行動を促す」 など

2 「言語の使用場面」の例

場面	例
児童の身近な暮らしに関わる場面	・ 家庭での生活 ・ 学校での学習や活動 ・ 地域の行事 ・ 子供の遊び など
特有の表現がよく使われる場面	・ 挨拶 ・ 自己紹介 ・ 買物 ・ 食事 ・ 道案内 など

3 「言語の働き」の例

場面	例
コミュニケーションを円滑にする	・ 挨拶をする ・ 相づちを打つ など
気持ちを伝える	・ 礼を言う ・ 褒める など
事実・情報を伝える	・ 説明する ・ 答える など
考えや意図を伝える	・ 申し出る ・ 意見を言う など
相手の行動を促す	・ 質問する ・ 依頼する ・ 命令する など

4 「言語の使用場面」の表現例

(1) 児童の身近な暮らしに関わる場面

場面	表現例
家庭での生活	I wake up (at 6:00). I go to school. I eat lunch. ----- I go home. I take a bath. I do my homework. This is my pet. ----- A : I'm tired. B : Are you OK?
	A : What time is it? B : It's 8:30.

学校での学習や活動	A : Do you have a ruler? B : Yes, I do. I have a ruler. No, I don't. I don't have a ruler.	A : How many? B : Two.
		This is my favorite place. I like music.
		This is the music room.
地域の行事	Let's dance bon-odori.	I like Yamakasa festival.
子供の遊び	Rock, scissors, paper. One, two, three.	A : Let's play dodgeball outside. B : Yes, let's.
	A : What's this? B : Hint, please.	A : Let's play cards. B : Sorry.
		I like tag. I like Bingo.

(2) 特有の表現がよく使われる場面

場面	例	
挨拶	Good morning/afternoon.	A : Let's start.
	A : Hello. How are you? B: I'm good.	B : Yes, let's. Hello. Goodbye. See you.
自己紹介	Hello(Hi), I am Haruto. I like blue. I like baseball. I don't like soccer.	A : Do you like soccer? B : Yes, I do. I like soccer.
買物	A : Hello. Do you have a pen? B : Sorry, no, I don't.	A : How many? B : Two, please.
	A : What do you want? B : I want potatoes, please.	A : Here you are. B : Thank you.
食事	A : What food do you like? B : I like pudding. This is my pizza.	A : What do you want? B : A banana, please.
道案内	Go straight. Turn right/left.	This is the swimming pool/music room/gym.

5 「言語の働き」の表現例

言語の働き		表現例	
コミュニケーションを円滑にする	挨拶をする	Hello.	Hi.
	相づちを打つ	Yes.	O.K.
気持ちを伝える	礼を言う	Thank you.	
	褒める	Good.	Great
事実・情報を伝える	説明する	This is a fruit. It is green. It is sweet.	I wake up at 6:00.
	答える	A : Do you like pizza? B: Yes, I do.	A : How are you? B : I'm happy.
考えや意図を伝える	申し出る	A : Let's play cards. B: Yes, let's.	
	意見を言う	I like Mondays.	
相手の行動を促す	質問する	Do you like blue?	What's this?
	依頼する	A : The A card, please. B: Here you are.	
	命令する	Go straight.	Turn right.

外国語活動

Q14 指導計画を作成する時に留意することは何ですか。

A 14

- 1 児童の主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を進めます。
- 2 各学校における児童の発達の段階と実情を踏まえ、学年ごとの目標を定めます。
- 3 身近で簡単な語句や基本的な表現を使いながら、英語に慣れ親しむ活動や児童の日常生活や学校生活に関わる活動を中心に、友達との関わりを大切にしたい体験的なコミュニケーションを行います。
- 4 言語活動で扱う題材については、児童が進んでコミュニケーションを図りたいと思うような、興味・関心のある題材や活動を扱います。
- 5 様々な国の生活や文化と我が国の生活や文化との共通点や相違点に気付くようにするとともに、言語や文化に関心を持ち、尊重できる態度を育成します。
- 6 インクルーシブ教育システムの構築を目指し、児童の自立と社会参加を一層推進していくために、児童の十分な学びを確保し、一人一人の児童の障害の状態や発達の段階に応じた指導や支援を一層充実させていきます。
- 7 積極的に英語を聞いたり、話したりするための動機付けのために、指導体制や指導方法の工夫を行います。

指導計画作成上の留意点

ア 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、具体的な課題等を設定し児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現などの知識を三つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにすること。

- ・ 「知識及び技能」を体験的に身に付けること、「思考力、判断力、表現力等」を育成すること、「学びに向かう力、人間性等」を涵養することが偏りなく実現されるよう、単元など内容や時間のまとまりを見通しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行います。
- ・ 高学年の外国語科や中・高等学校における指導と円滑に接続できるよう児童の発達の段階や学校・地域の実態に応じて適切に作成します。
- ・ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うため、単元終末段階の児童に望む具体的な姿のイメージをもち、実態に応じて単元を見通した課題設定をします。

イ 学年ごとの目標を適切に定め、2学年間を通じて外国語活動の目標の実現を図るようにすること。

- ・ 改訂前の外国語活動の取組状況などを踏まえ、児童の実態や地域の実情に応じて、各学校が主体的に学年ごとの目標を定め、2学年間を通して目標の実現を図ります。

「知識及び技能」

ウ 実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、2の(1)に示す事項について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また、英語を初めて学習することに配慮し、簡単な語句や基本的な表現を用いながら、友達との関わりを大切にしたい体験的な言語活動を行うこと。

- ・ 中学年では、友達や家族、地域、社会とのつながりに焦点を当てた活動を行います。
- ・ チャンツや歌で英語のリズムに慣れ親しませたり、資料や実物、ネイティブ・スピーカーの話などから文化の違いを知り多様な考え方があることを理解させたりします。また、絵本を用いた学習で、ストーリーを予想しながら聞いたり、聞こえた語句を言ったりすることで、楽しみながら主体的に聞かせる活動をすることもできます。
- ・ 自分や身近な話題に関して友達とやり取りをすることを通して、友達や自分のよさを再認識することで、他者理解や自尊感情などを高めていくようにします。

エ 言語活動で扱う題材は、児童の興味・関心に合ったものとし、国語科や音楽科、図画工作科など、他教科等で児童が学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をすること。

【他教科等との関連付けの例】

- ・ 国語科において、短歌や俳句を音読することと、外国語活動においてチャンツ等を言うことの両方の学習を体験することを通して、そのリズムの違いに気付かせる。
- ・ 国語科におけるローマ字の取扱いを踏まえ、地名などにはヘボン式が使われていることを知らせる。
- ・ 音楽科における、歌ったり打楽器を演奏したりする学習を、チャンツや歌などの英語の音声やリズムに慣れ親しむ活動の中で生かす。
- ・ 図画工作科で作成した作品を、ショー・アンド・テルの中で紹介する。
- ・ 絵本等を活用した英語劇を、学習発表会で発表するなど学校行事との関連を図る。

オ 外国語活動を通して、外国語や外国の文化のみならず、国語や我が国の文化についても併せて理解を深めるようにすること。言語活動で扱う題材についても、我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つものとする。

- ・ 外国語や外国の文化を扱う際には、児童の興味・関心を踏まえ、特定のものに偏らないように心掛けます。
- ・ 国語や我が国の文化について理解を深め、その特徴や良さについて発信することができるような指導を大切にします。
- ・ 知識の伝達に偏らないように注意します。

カ 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

- ・ 目標や内容の趣旨、学習活動のねらいを踏まえ、学習内容の変更や学習活動の代替を安易に行うことがないよう留意するとともに、児童の学習負担や心理面にも配慮します。

【配慮の例】

- ・ 音声を聞き取ることが難しい場合、外国語と日本語の音声やリズムの違いに気付くことができるよう、リズムやイントネーションを、教員が手拍子を打つ、音の強弱を手を上下に動かして表す。
- ・ 本時の流れが分かるように、本時の活動の流れを黒板に記載しておく。

キ 学級担任の教師又は外国語活動を担当する教師が指導計画を作成し、授業を実施するに当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行うこと。

- ・ 指導計画の作成や授業の実施に当たっては、児童のことをよく理解し、英語への児童の不安を取り除き、新しいものへ挑戦する気持ちや失敗を恐れない雰囲気を作り出す役割を担う学級担任の教師の存在が欠かせません。
- ・ 英語を用いた具体的な活動の場面では、児童が生きた英語に触れる機会を充実させるため、ネイティブスピーカーや英語が堪能な人々とのコミュニケーションを取り入れ、チームティーチングを行いながら指導することで、児童の意欲を一層高めるようにします。

外国語活動

Q15 内容の取扱いについて配慮することは何ですか。

A 15

- 1 児童の発達の段階を考慮して表現を選定するとともに、児童にとって身近なコミュニケーションの場面を設定し、児童が積極的にコミュニケーションを図ることができるように指導します。
- 2 音声によるコミュニケーションを重視し、「聞くこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」を中心とする豊かなコミュニケーションを体験させる中で、音声によるコミュニケーションを補助するものとして文字を扱います。
- 3 音声によるコミュニケーションだけでなく、言葉によらないコミュニケーションの役割を理解するように指導します。
- 4 ペア・ワークやグループ・ワークなどの学習形態を工夫し、児童が伝えたい内容を話したり、友達の話す内容を聞いたりすることができる場面を設定します。
- 5 児童の関心を高め、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につながるよう、活動に応じてデジタル教材等を活用します。
- 6 外国語教育における学習過程の中で、「思考力、判断力、表現力等」を高めていくようにします。

指導計画作成上の配慮事項

ア 英語でのコミュニケーションを体験させる際は、児童の発達の段階を考慮した表現を用い、児童にとって身近なコミュニケーションの場面を設定すること。

- ・ 外来語など児童が聞いたことのある表現や身近な内容を活用し、児童の発達の段階や興味・関心に合った身近な場面で、英語でのコミュニケーションを体験させます。
- ・ 過度に複雑なコミュニケーションを目指そうとするあまり、児童に対して過度の負担を強いることのないようにするとともに、児童の主体的な自己表現を促すよう配慮します。

イ 文字については、児童の学習負担に配慮しつつ、音声によるコミュニケーションを補助するものとして取り扱うこと。

- ・ 児童が文字に対して興味・関心を高めるように、身の回りに英語の文字がたくさんあることに気付かせたりするなど、楽しみながら文字に慣れ親しんでいくように、文字を扱うようにします。
- ・ 文字に慣れ親しませ、高学年の外国語科における文字の指導と連携させるとともに、文字の名称レベルに指導を留めます。
- ・ 英語の発音と綴りの法則を教え込むような指導は、児童に対して過度の負担を強いることになると考えられるため、不適切です。
- ・ 児童が文字を読んだり書いたりできない段階であることを踏まえ、英文だけを板書して指示するような、文字を使って行う指導とならないよう注意します。

ウ 言葉によらないコミュニケーションの手段もコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、ジェスチャーなどを取り上げ、その役割を理解させるようにすること。

- ・ ジェスチャーなどを活用して表現させるなど、コミュニケーションを図る楽しさを体験させるようにします。
- ・ 表情やジェスチャーを付けたり、イラストや実物などを見せたりして、自分の気持ちが相手に伝わるように工夫しながらコミュニケーション活動をさせるようにします。
- ・ ジェスチャーや表情を比較する中で、日本と外国との違いを知り、多様な考え方があることに気付かせるようにします。

エ 身近で簡単な事柄について、友達に質問をしたり質問に答えたりする力を育成するため、ペア・ワーク、グループ・ワークなどの学習形態について適宜工夫すること。その際、相手とコミュニケーションを行うことに課題がある児童については、個々の児童の特性に応じて指導内容や指導方法を工夫すること。

- ・ 言語活動は相手意識と中身のある活動が基本であるため、学習形態を工夫し、児童が本当に伝えたい内容を話したり、友達の話す内容を聞いたりすることができる場面を設定します。
- ・ 相手とのコミュニケーションを行うことに課題がある児童については、その児童が日頃から関わることのできる児童をペアの相手やグループのメンバーに意図的に配置したり、教師やALT等とペアを組んだりするなどの工夫を行います。

オ 児童が身に付けるべき資質・能力や児童の実態、教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、児童の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにすること。

- ・ 視聴覚教材の活用を図る際は、活動を行う際の生きたモデルや、コミュニケーションの働きなどを示すことができるなどの特性を踏まえ、それらを使う目的を明確にし、児童や学校及び地域の実態に応じたものを選択することが大切です。

カ 各単元や各時間の指導に当たっては、コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定し、言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより、児童が学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるようにすること。

- ・ 外国語教育における学習過程としては、児童が設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する、目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる、目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う、言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う、といった流れの中で、学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動で活用したりすることで、「思考力、判断力、表現力等」を高めていくことが大切です。

外国語活動

Q16 道徳教育との関連はどのように図ればよいですか。

A 16

- 1 学習活動や学習態度への配慮，教師の態度や行動による感化とともに，外国語活動と道徳教育との関連を明確に意識しながら，適切な指導を行う必要があります。
- 2 外国語活動の年間指導計画と，道徳教育の全体計画との関連，指導の内容及び時期等に配慮し，両者が相互に効果を高め合うようにします。

第3章 指導計画の作成と内容の取り扱いの2

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき，道徳科などとの関連を考慮しながら，第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について，外国語活動の特質に応じて適切な指導をすること。

「学校における道徳教育は，特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり，道徳の時間はもとより，各教科，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて，児童の発達の段階を考慮して，適切な指導を行う」と規定されています。

第2章の第1節の第1目標の(3)

外国語を通して，言語やその背景にある文化に対する理解を深め，相手に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

- ・ 言語やその背景にある文化に対する理解を深めることは，世界の中の日本人としての自覚をもち，国際的視野に立って，世界の平和と人類の幸福に貢献することにつながります。
- ・ 相手に配慮することは，外国語の学習を通して，相手に配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し，多面的思考ができるような人材を育てることにつながります。
- ・ 外国語活動で扱った内容や教材の中で適切なものを，道徳科に活用するようにします。
- ・ 道徳科で取り上げたことに関係のある内容や教材を外国語活動で扱う場合には，道徳科における指導の成果を生かすように工夫することも考えられます。
- ・ 外国語活動の年間指導計画の作成などに際して，道徳教育の全体計画との関連，指導の内容及び時期等に配慮し，両者が相互に効果を高め合うようにします。

(参考資料) 第3章特別の教科道徳の第2に示す内容

A 主として自分自身に関すること

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
善悪の判断 自律 自由と責任	よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。	正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。	自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。
正直 誠実	うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活すること。	過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること。	誠実に、明るい心で生活すること。
節度 節制	健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活すること。	自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活すること。	安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること。
個性の伸長	自分の特徴に気付くこと。	自分の特徴に気付く、長所を伸ばすこと。	自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。
希望と勇気 努力と強い意志	自分のやるべき勉強や仕事をしっかり行うこと。	自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと。	より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。
真理の探究			真理を大切にし、物事を探究しようとする心をもつこと。

B 主として人との関わりに関すること

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
親切 思いやり	身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。	相手のことを思いやり、進んで親切にすること。	誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすること。
感謝	家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。	家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。	日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。
礼儀	気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること。	礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接すること。	時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること。
友情 信頼	友達と仲よくし、助け合うこと。	友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。	友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。
相互理解 寛容		自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。	自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
規則の尊重	約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。	約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。	法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。
公正 公平 社会正義	自分の好き嫌いとらわれないで接すること。	誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。	誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。
勤労 公共の精神	働くことのよさを知り、みんなのために働くこと。	働くことの大切さを知り、みんなのために働くこと。	働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役に立つことをすること。
家族愛 家庭生活の充実	父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つこと。	父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくること。	父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること。
よりよい学校生活 集団生活の充実	先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくすること。	先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級や学校をつくること。	先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくることとともに、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。
伝統と文化の尊重 国や郷土を愛する態度	我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。	我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、国や郷土を愛する心をもつこと。	我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。
国際理解 国際親善	他国の人々や文化に親しむこと。	他国の人々や文化に親しみ、関心をもつこと。	他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努めること。

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
生命の尊さ	生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。	生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。	生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。
自然愛護	身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接すること。	自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすること。	自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。
感動 畏敬の念	美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと。	美しいものや気高いものに感動する心をもつこと。	美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつこと。
よりよく生きる喜び			よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる。

外国語活動・外国語科

Q17 移行期間にはどのような指導を行えばよいですか。

A 17

1 平成30, 31年度中の第5, 6学年

- (1) 新たに年間15単位時間を加え, 50単位時間を確保し, 外国語活動の内容に加えて, 外国語科の内容を扱います。
- (2) 外国語科の内容については, 中学校との接続の観点から最低限必要な内容と, それを活用して行う言語活動を中心に扱います。
- (3) 教材は, Hi, friends! や, 新学習指導要領に対応した教材から, 必要な内容が配布されます。

2 平成30, 31年度中の第3, 4学年

- (1) 新たに年間15単位時間を確保し, 外国語活動を実施します。
- (2) 高学年との接続の観点から最低限必要な内容と, それを活用して行う言語活動を中心に扱います。
- (3) 教材は, 新学習指導要領に対応した教材から, 必要な内容が配布されます。児童の発達の段階を考慮して表現を選定するとともに, 児童にとって身近なコミュニケーションの場面を設定し, 児童が積極的にコミュニケーションを図ることができるように指導します。

3 授業時数及び総授業時数は, 現行の時数を標準とし, 「外国語活動の授業時数の授業の実施のために特に必要がある場合には, 年間総授業時数及び総合的な学習の時間の授業時数から15単位時間を超えない範囲内の授業時数を減じることができること」とされています。

4 学習評価は, 現行学習指導要領の3観点で行います。

1 取扱い内容

ア 新学習指導要領の外国語活動(第3, 4学年)及び外国語科(第5, 6学年)の内容の一部を加えて必ず取り扱うものとする。

- ・ 平成30年度及び平成31年度の第3学年及び第4学年の外国語活動の指導に当たっては, 新小学校学習指導要領の規定の全部又は一部によるものとし, 新小学校学習指導要領第4章第2の2〔第3学年及び第4学年〕(1)イ(ア)及び(3)に係る事項は必ず取り扱うものとする。
【()英語の音声やリズムなどに慣れ親しむ, ()日本語との違いを知り, 言葉の面白さや豊かさに気付く, ()聞くこと及び話すこと[やり取り][発表]の言語活動の一部】
- ・ 平成30年度及び平成31年度の第5学年及び第6学年の外国語活動の指導に当たっては, 現行小学校学習指導要領に規定する事項に, 新小学校学習指導要領第2章第10節の2の全部又は一部を加えて指導するものとし, 新小学校学習指導要領第2章第10節の2〔第5学年及び第6学年〕(1)ア, 同イ(ア), 同イ(ア)e及びf, 同イ(イ)並びに2〔第5学年及び第6学年〕(3)イ及び同オに係る事項は必ず取り扱うものとする。【()音声, 活字体の大文字と小文字, ()文及び文構造の一部, ()読むこと及び書くことの言語活動の一部】

2 移行期間における標準授業時数

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
外国語活動の授業時数	-	-	15	15	50	50
総授業時数	850	910	960	995	995	995

3 学習評価

現行学習指導要領の3観点で評価する。指導要録への記載は第5, 6学年は外国語活動の欄に, 第3, 4学年は総合所見欄に記入する。

4 教材等

- (1) Hi, friends! 1, 2 (現在配布されている版と同じもの)
- (2) Hi, friends! Story Books (第3, 4学年用) 及び Hi, friends! plus (第5, 6学年用)
平成29年3月に、「次期学習指導要領に向けた指導力向上のための文部科学省作成補助教材等について」(平成28年11月)とDVD(2枚)を配布済み
- (3) 文部科学省作成の新教材(第3~第6学年用, 全210時間分)
児童冊子及び指導書, 年間指導計画例, 活動例, 学習指導案例, デジタル教材
- (4) 「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」

5 移行期間中に必ず取り扱う事項

- (1) 第3, 4学年 小学校学習指導要領 第4章第2の2

必ず取り扱うもの	学習指導要領における対応箇所
(1)イ(ア)	(1) 英語の特徴等に関する事項 イ 日本と外国の言語や文化について理解すること。 (ア) 英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに, 日本語との違いを知り, 言葉の面白さや豊かさに気付くこと。
(3)	(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項 言語活動に関する事項(以下省略)

- (2) 第5, 6学年 小学校学習指導要領 第2章第10節の2

必ず取り扱うもの	学習指導要領における対応箇所
(1)ア	(1) 英語の特徴やきまりに関する事項 ア 音声 次に示す事項のうち基本的な語や句, 文について取り扱うこと。 (ア) 現代の標準的な発音 (イ) 語と語の連結による音の変化 (ウ) 語や句, 文における基本的な強勢 (エ) 文における基本的なイントネーション (オ) 文における基本的な区切り
イ(ア)	イ 文字及び符号 (ア) 活字体の大文字・小文字
エ(ア)e及びf, 同エ(イ)	エ 文及び文構造 (ア) 文 e 代名詞のうち, I, you, he, sheなどの基本的なものを含むもの f 動名詞や過去形のうち, 活用頻度の高い基本的なものを含むもの (イ) 文構造 a [主語+動詞] b [主語+動詞+補語]のうち, 主語+be動詞+名詞/代名詞/形容詞 c [主語+動詞+目的語]のうち, 主語+動詞+名詞/代名詞
(3) イ及び同オ	(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項 言語活動に関する事項 イ 読むこと(以下省略) オ 書くこと(以下省略)